

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業

日英原子力共同研究プログラム

事後評価総合所見

研究課題名：環境中放射性核種浄化のための新規な修復材料の開発	
研究代表者（研究機関名）：大貫 敏彦→香西 直文（日本原子力研究開発機構）	
再委託先研究責任者（研究機関名）：山下 光雄（芝浦工業大学）	
再委託先研究責任者（研究機関名）：宇都宮 聡（九州大学）	
研究期間及び研究費：平成26年度～平成28年度（3年計画） 33百万円	
項目	要約
1. 研究の概要	<p>福島における環境修復及び世界規模で問題となっている原子炉の廃炉や廃棄物処分に伴う環境浄化においての問題点を英国（バーミンガム大学）と協力して解決するため、バイオ鉱物によるCo及びSrの回収及び流動性ナノ鉱物によるCs及びSrの回収を可能にする新規の修復手法を開発することを目的として以下の研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 好塩菌による放射性核種回収法の確立2) バイオ鉱物などのナノ化による流動性向上技術の確立3) 最先端分析法による化学状態分析
2. 総合評価	<p>A</p> <p>環境中の放射性核種を浄化するための微生物（新しい株）が発見され、当初の目標は達成されたと評価できる。</p> <p>なお、国際共同研究としての効果は見られたが、英国側との交流を十分に取り、最大限に活かせるとより良いものであったと考える。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 一部を除き、相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>